

QR Newsletter

第四紀通信

Vol.4 No.1, 1997



相模原市立博物館の展示”相模原台地の10万年”
(博物館見学会案内参照)

Vol.4 No.1

January 30, 1997

博物館見学会会のお知らせ	2	研連国際シンポジウム	11
地球惑星科学合同大会	2	研究集会のおしらせ	13
論文賞候補者の推薦	4	評議員会議事録など	13
テフラ研究委員会巡検	10	会員消息	14

学会からのお知らせ

■ 博物館見学会のお知らせ

日本第四紀学会では1996年度の博物館見学会は、1995年に新設された相模原市立博物館を見学します。見学会では博物館主催による町田 洋会員の講演「相模川流域の10万年史」が開かれます。また、日頃見ることのできない収蔵庫や研究室・実験室などの博物館の裏側も案内していただけますので、多くの方々が参加下さいますようお願いいたします。学芸員を目指す学生さんたちにも、是非参加を呼びかけてください。

日時：1997年2月15日（土）13：00 ～ 17：00

場所：相模原市立博物館

相模原市高根3-1-15 TEL 0427-50-8030 FAX 0427-50-8061

博物館主催公開講演会： 町田 洋 「相模川流域の10万年史 一火山灰を鍵にして一」

参加費：無料（但しプラネタリウム見学は有料です）

参加申し込み：自由参加、会員であるかどうかは問いません。当日直接現地においでください。

内容：相模原市立博物館玄関に集合 13：00

博物館 自由見学 13：00～14：00

講演会 14：00 ～ 16：00

館内施設見学（収蔵庫・研究室等） 16：00～17：00

交通の案内：

横浜線淵野辺駅南口から 上溝方面行きバスで弥栄下車5分、古淵行きバスで宇宙科学研究所下車1分、または 淵野辺循環共和回りバスで宇科研入口下車5分

横浜線相模原駅からバス 相模大野行きバス（相02、06）で宇宙科学研究所入口下車5分

小田急線相模大野駅から 相模原駅行きバスで宇宙科学研究所入口下車5分

■ 地球惑星科学関連学会合同大会

日本第四紀学会固有セッション開催のご案内

1997年3月25日から3月28日まで、名古屋大学で地球惑星科学関連学会合同大会が開かれます。

日本第四紀学会は、昨年から、この合同大会で固有セッションを行うようになりました。本年は大会2日目の3月26日（水）午前中（9：00～12：15）、I会場（共通教育棟本館2階）にて、シンポジウムを中心に開催いたします。

また、一般研究発表は全てポスターセッションで行われます。ポスターセッションは26日9時から夕刻7時まで掲示できます。コアタイム（この時間、口頭発表は行われず）は16：45～17：45です。ポスターセッション発表者はこの間会場にいて質疑に答えて下さい。また、第四紀学会ではシンポジウムの後（11：50～12：14）、ポスターセッション発表者に対し1人1分の持ち時間でショートサマリーの発表を認めています。但し、これは義務ではありませんので、時間の都合のつかない発表者はショートサマリーの発表をしなくてもかまいません。

なお、第四紀学会会員には2月の中旬以降に合同大会プログラム委員会より大会全体のプログラムが送られてきます、詳しくはそれをごらんいただきたいのですが、以下にシンポジウム講演とポスターセッションのショートサマリー発表のプログラムを示します。

日本第四紀学会固有セッションプログラム（講演番号（講演時間） 講演者： 講演題名）

口頭発表（シンポジウム：地球規模の変動に対する熱帯海岸環境の応答と対応）

I21-01（9：00～9：20）松本英二：熱帯域の環境変化

I21-02（9：20～9：40）立石雅昭ほか：南ベトナム、メコンデルタの形成過程と海岸環境の変遷

I21-03（9：40～10：00）海津正倫：完新世における環境変化と熱帯デルタの地形変化

I21-04（10：00～10：20）菊池多賀夫：マングローブの特性と環境変化への応答

I21-05（10：20～10：40）宮城豊彦：マングローブ生態系の立地変動と地球環境変動

- I21-06 (10:40~11:00) 茅根 創：後氷期の地球規模変動に対するサンゴ礁の応答と将来予測
 I21-07 (11:00~11:20) 野崎 健ほか：サンゴ礁生態系トータルエネルギーシステムによる地球温暖化対策技術
 I21-08 (11:20~11:40) 三村信男ほか：社会経済活動への影響と対応策

ポスターセッション (ショートサマリー付き)

- I21-P01s (11:50~11:51) 遠藤邦彦ほか：兵庫県南部地震による神戸地区埋め立て地の液状化層
 I21-P02s (11:51~11:52) 石綿しげ子ほか：後志利別川河川敷で発見された北海道南西沖地震液状層
 I21-P03s (11:52~11:53) 高野 仁ほか：活断層調査における図下処理の幾つかの手法について
 I21-P04s (11:53~11:54) 三谷 豊ほか：千葉市緑区大金沢における立川ロームを切る活断層の発見
 I21-P05s (11:54~11:55) 鈴木正章ほか：トレンチ調査による渡島大島1741年噴火に伴うテフラと津波堆積物の同定
 I21-P06s (11:55~11:56) 小林 淳：箱根火山の最近5万年間の噴火活動に伴う地形発達
 I21-P07s (11:56~11:57) 吉田 浩ほか：三宅島火山のテフラ層序
 I21-P08s (11:57~11:58) 鈴木毅彦：チタン磁鉄鉱の主成分化学分析法によるテフラの岩石記載とそれによるテフラの認定
 I21-P09s (11:58~11:59) 水野清秀：岩石学的特徴に基づく、南九州中期更新世前期の火砕流堆積物の広域対比
 I21-P10s (11:59~12:00) 仲谷英夫ほか：中国南部雲南省元謀盆地の後期新生代古人類化石産出層の古環境と地質年代
 I21-P11s (12:00~12:01) 岡 俊英ほか：中国元謀盆地産化石のESR年代測定
 I21-P12s (12:01~12:02) 岡下松生ほか：電子スピン共鳴法による東アジアの風成塵の産地同定と卓越風の推定
 I21-P13s (12:02~12:03) 幡谷竜太ほか：海成段丘堆積物のESR、TL、OSL年代測定
 I21-P14s (12:03~12:04) 綿貫拓野ほか：TL法による長江デルタの上部馬蘭レスと「ハードクレイ」の比較
 I21-P15s (12:04~12:05) 濱田誠一ほか：中国太湖の湖底堆積物中に見られるラミナ層について
 I21-P16s (12:05~12:06) 小森次郎ほか：ラミナによる中国太湖軟質堆積物の堆積速度の検討
 I21-P17s (12:06~12:07) 森永速男ほか：磁気測定に基づく石囲い炉及び集石遺跡の被熱歴の検出法
 I21-P18s (12:07~12:08) 森永速男ほか：磁気測定に基づく旧石器遺跡土壌の被熱歴痕跡の検出
 I21-P19s (12:08~12:09) Biswasほか：神戸市東灘区における1500mボーリングコアの古地磁気測定
 I21-P20s (12:09~12:10) 藤木俊之ほか：琵琶湖と瀬戸内海沿岸堆積物の花粉分析学的研究
 I21-P21s (12:10~12:11) 池原 研ほか：日本海堆積物に記録された後期第四紀の短周期気候変動
 I21-P22s (12:11~12:12) 桑原拓一郎：下北半島、田名部平野のMIS5海成面
 I21-P23s (12:12~12:13) 佐々木圭一ほか：南西諸島喜界島における完新世珊瑚礁
 I21-P24s (12:13~12:14) 横山祐典ほか：西九州の完新世海水準変動とハイドロアイソスタシーに伴う傾動運動

■ 日本第四紀学会論文賞受賞候補者の推薦について

本賞は会誌「第四紀研究」に優れた論文を発表した会員の表彰を通じて、第四紀学の進歩と本学会の発展を図ることを目的としています。本賞は規定により、毎年、会員の皆様から自薦・他薦によって候補者をご推薦いただき、論文賞受賞候補者選考委員会において候補者の選考を行います。受賞者は6月末日に決定され、8月に北海道大学で開催される1997年度総会で表彰されます。なお、第四紀学会論文賞規定と同賞選考に関する内規は、第四紀通信Vol.1, No.4の2~3ページに掲載されていますので、ご参照ください。

1. 選考対象：「第四紀研究」第34巻(1995年)および第35巻(1996年)に掲載された原著論文、短報、総説および特集号の論文
2. 推薦書類：推薦書類には、推薦者名(自薦を含む)、受賞候補者名、受賞候補論文名(巻号頁を明記)および推薦理由を、記入する。
3. 推薦書類の提出先：〒113 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センターC21内 日本第四紀学会論文賞受賞候補者選考委員会
4. 推薦書類の受理期限：1997年3月31日(必着)

■第6回テフラ研究委員会／八ヶ岳－房総野外巡検のお知らせ

日本第四紀学会のテフラ国内委員会では、昨年の会での話し合いを参考にし、1997年の活動の一つとして次のような野外巡検を企画しました。ふるってご参加下さい。

日時：1997年4月3日（木）～5日（土）（2泊3日）

巡検場所：八ヶ岳東麓～甲府盆地～富士山麓～大磯丘陵～房総半島

巡検のテーマ：本州中～東部の第四紀中期指標テフラと編年

内容：1) 北アルプス、南部フォッサマグナの火山と九州起源のテフラの層序編年
2) 海成層・陸成層中のテフラ対比に基づく火山活動史、海面変化史、気候変化史の解明

およそのコース：

4/3 京王相模原線南大沢駅－多摩丘陵北部－八ヶ岳東麓－曾根丘陵－山中湖（泊）

4/4 山中湖－大磯丘陵－房総鹿野山（泊）

4/5 房総鹿野山－房総半島－千葉駅－新宿駅西口

案内者：鈴木毅彦・杉原重夫・町田 洋

連絡先：鈴木毅彦（都立大／理／地理，八王子市南大沢1-1 都立大学理学部地理学教室

P.0426-77-2594, F.0426-77-2589, e-mail：suzuki@geog.metro-u.ac.jp

参加費：約30,000円（宿泊費、バス代、昼食代込み 最後に精算します）

申込：都立大・鈴木毅彦(P.0426-77-2594; F.0426-77-2589 e-mail.suzuki@geog.metro-u.ac.jpまで、

氏名・連絡先（電話とファックス番号、あればe-mailアドレスも）・その他（質問、連絡事項など）を付記して2月28日(金)までにお申込み下さい。先着順40名の予定。申込金10,000円

郵便振替口座：00190-0-720271鈴木毅彦。なお申し込み後3/10までにキャンセルされる場合は申込金を返却できます。また、参加人数が規定に達しない場合、中止することがあります。

集合場所と時間（予定）：4/3 9：00京王相模原線南大沢駅

解散の予定：4/5 17～18時JR千葉駅、19時ころ新宿駅西口

宿泊場所：4/3：山中湖簡易保険保養センター（0555-62-3515）

4/4：国民宿舎鹿野山センター（0555-62-3515）

3月に、参加予定者には最終案内を差し上げます。

■アジア・西太平洋地域における第四紀環境変動に関する国際シンポジウム

下記の国際シンポジウムが開催されます。参加希望の方は1997年4月30日までに、国際シンポジウム事務局までご連絡ください。

会議名：アジア・西太平洋地域における第四紀環境変動に関する国際シンポジウム

開催期間：平成9年10月14日～平成9年10月17日（4日間）

開催地（会場）：東京都（東京大学山上会館）

主催者など：（1）主催 第四紀環境変動国際シンポジウム実行委員会

（2）共催 日本学術会議第四紀研究連絡委員会、日本第四紀学会

（3）後援 日本地理学会、東京地学協会ほか（予定）

INQUA, INQUA Quaternary Shoreline Commission, INQUA Commission of Stratigraphy,

IGBP-PAGES Japan, IGBP-LOICZ Japan, IGCP 396

第四紀環境変動国際シンポジウム実行委員会の構成：委員長：米倉伸之、委員：海津正倫、遠藤邦彦、

太田陽子、小野有五、大場忠道、大村明雄、茅根 創、熊井久雄、小池裕子、斉藤文紀、田村俊和

参加費：5,000円（予稿集および懇親会費を含む）

仮登録締切：1997年4月30日

アブストラクト締切：1997年8月15日

国際シンポジウムの事務局：東京大学 大学院理学系研究科 地理学専攻 茅根 創

TEL 03-3813-2111 ex4573, FAX 03-5684-0518, E-mail kayanne@geogr.s.u-tokyo.ac.jp

国際シンポジウムの目的

アジア・西太平洋地域における第四紀環境変動に関する研究の現状をまとめ、研究成果を交流し、今後の研究課題を明らかにすることを目的とする。第四紀研究の立場から、自然環境の変動のプロセスとメカニズムが明らかにすることは、人間による環境改変を評価し、現在から近未来にかけての環境資源の利用と管理についての科学的な基礎を得るうえで、大きな貢献をすることが出来ると思われる。さらに、現在のところ、アジア地域における国際第四紀学連合の加盟国は、日本、中国、韓国の3ヶ国に過ぎないが、未加盟国の研究者を含めて国際第四紀学連合の各種の研究委員会の活動を活発にするうえでよい機会となり、アジア太平洋地域における研究者のネットワークを構築する上でも、この国際シンポジウムは重要な役割を果たすことが期待される。

日程：セッションのテーマ（和文）（コンピーナー名）（セッション英文名）

第1日（平成9年10月14日）

午前 第四紀の高精度層序と編年（熊井久雄）

High resolved Chronostratigraphy and Correlation on the Quaternary of Asia-Pacific Region

招待予定者：Nadja Razjigaeva (Pacific Inst. Geography, Russian Academy of Sciences, Russia), Han Jiamao (Inst. Geology, Chinese Academy of Sciences, China), An Zhisheng (Xian Branch of Chinese Academy of Sciences, China)

午後 東アジアにおけるパレオ・モンスーン変化の復元（小野有五）

High resolution and Multi-proxy approaches of paleomonsoon changes in the Eastern Asia

招待予定者：Li Jijun (Department of Geography, Lanzhou University, China), Cui Zhijiu (Department of Geography, Beijing Univ., China), Fang Xiaomin (Department of Geography, Lanzhou University), Sun Xiangjun (Institute of Botany, Chinese Academy of Sciences)

第2日（10月15日）

午前 海岸動態：デルタと大陸棚の第四紀後期の環境変動（斉藤文紀・海津正倫・Yim, W.S.）

Coastal Dynamics: Late Quaternary changes of deltas and continental shelves

招待予定者：Colin Woodroffe (School of Geosciences, University of Wollongong, Australia), LI Shaoquan (Institute of Marine Geology, MGMR, Qingdao, P.R.China), Sin Sinsakul (Department of Mineral Resources, Bangkok, Thailand), Wyss W.S. Yim (Department of Earth Science, The University of Hong Kong)

午後 第四紀後期の海面変化とテクトニクス（太田陽子・大村明雄・Berryman, K.）

Late Quaternary sea-level change and coastal tectonics

招待予定者：John Chappell (Australian National University, Australia), Patrick Nunn (University of South Pacific, Fiji), Kelvin Berryman (New Zealand)

第3日（10月16日）

午前 サンゴ年輪・サンゴ礁による西太平洋の古海洋環境（茅根 創・松本英二）

Paleoceanography of West Pacific reconstructed by coral reefs and coral annual bands

招待予定者：Fairbanks, R. G. (Lamont-Doherty Earth Observatory, USA), Bard, E. (CEREGE, Univ. d'Aix-Marseille, FRANCE), Gagan, M.K. (ANU, Australia), Typhoon, Lee (Inst Earth Science, Academia Sinica, Taipei), W. S. Hantoro (Indonesian Inst Science)

午後 西太平洋とその縁辺海の古海洋環境（大場忠道・汪 品先）

Paleoceanography of the West Pacific Ocean and Its marginal Seas

招待予定者：Chen Min-Pen (Institute of Oceanography, National Taiwan University), Sergei Gorbarenko (Pacific Oceanological Institute, Vladivostok, Russia), WANG Pinxian (Department of Marine Geology, Tongji University, China)

第4日（10月17日）

午前 全体会議と今後の課題

午後 分科会（各分野における研究交流の検討）

仮登録される方は、氏名、所属、所属所在地、連絡先、電話番号（ファクス番号）、電子メールアドレス、発表希望の有無、発表希望のセッション、発表内容の仮題などを、電子メールあるいはファクスにて上記事務局宛てに4月30日までに御送りください。サーキュラーを5月末日までにお送りする予定です。

研究集会のお知らせ

■ 「最新地質時代の地球環境」シンポジウムについて

今年2月に日本学術会議のIGCP国内委員会、第四紀研究連絡委員会主催、第四紀学会後援の下記のシンポジウムが、神戸大学で開催されます。

日時：1997年2月15日、16日

場所：神戸大学滝川記念学術交流会館

主催：IGCP専門委員会（日本IGCP国内委員会）

共催：日本学術会議国際学術協力事業研究連絡委員会、第四紀研究連絡委員会

後援：日本第四紀学会、太平洋地域新第三系層序委員会、日本地理学会、
日本学術会議 IGBP-LOICZ小委員会

プログラム

1. 第四紀における急速な海岸環境の変化・大陸棚 (IGCP-367, 396)

2月15日(土) 午前中 10:00-12:00

趣旨説明及びIGCP-367, 396の紹介 太田陽子(専修大学)・斎藤文紀(地質調査所)
東アジアにおける海面上昇の海岸への影響 三村信男(茨城大学)
マングローブ海岸における環境変化 藤本 潔(森林総合研究所)
デルタ海岸の地形変化 海津正倫(名古屋大学)

午後1 13:00-15:30

日本の海岸侵食 宇多高明(土木研究所)
日本沿岸における海岸環境の人為変化 小池一之(駒沢大学)
地震による海岸の急速な変化 太田陽子(専修大学)
日本周辺における津波堆積物と古地震 箕浦幸治(東北大学)
兵庫県南部地震に伴う海岸の変化 平野昌繁(大阪市立大学)

午後2 15:45-17:00

日本周辺の最終氷期以降の大陸棚の環境変遷 斎藤文紀(地質調査所)
琉球列島の島棚堆積物とその堆積年代 大村明雄(金沢大学)・辻 善弘(石油開発情報センター)
総合討論

2. 太平洋の水路の最近地質時代における変遷 (IGCP-355)

2月16日(日) 9:00-12:00

ベーリング海峡の新生代地史的イベント 小笠原憲四郎(筑波大学)
中央アメリカ海峡の閉鎖とその影響 茨木雅子(静岡大学)
南極循環流の成立と気候変動 小泉 格(北海道大学)
太平洋-インド洋水路の新第三紀における変遷 西村 進(京都大学)
日本海の成立とその変遷 広岡公夫(富山大学)
総合討論

■ 第4回「アジア学術会議-科学者フォーラム-」のお知らせ

1. 会議の概要

- (1) 開催時期：平成9年2月3日(月)～7日(金)の5日間
- (2) 開催場所：日本学術会議及び三田共用会議所(Mita House)
- (3) 参加者：中華人民共和国、インド、インドネシア、日本、マレーシア、フィリピン、大韓民国、シンガポール、タイ、ヴェトナムの各国の学術推進機関(アカデミー等)から、科学者計20名
- (4) 議題：「持続可能な発展とアジアにおける学術協力のあり方について」
- (5) 日程：
 - 2/3(月) 準備会合、セッション1、自由討議 (三田共用会議所)
 - 4(火) 学術シンポジウム「アジアにおける学術・伝統をふまえた新しい展望」(日本学術会議)
 - 5(水) 学術シンポジウム「 同上 」(日本学術会議)
 - 6(木) セッション2、3 (三田共用会議所)
 - 7(金) 施設見学

2. 照会先：日本学術会議事務局情報国際課 (東京都港区六本木7-2 2-3 4, TEL 03-3403-1949)

■ INQUA XV International Congress 第1回回状のお知らせ

1999年8月、南アフリカDurbanで開催されるXV INQUA大会の第1回回状が届いておりますので、ご案内いたします。なお第1回回状を希望される方は、第四紀通信Vol. 3-5, 8頁(開催期日を1996年8月としたのは1999年8月の誤りです)をご覧ください。

Main Theme : "The Environmental Background to Hominid Evolution in Africa"

Time-Table : 01 December 1996 Mailing of First Circular and pre-registration forms

30 June 1997 Deadline for the return of pre-registration forms

01 December 1997 Mailing of second Circular and full registration forms

31 March 1998 Deadline for submission of abstracts

01 December 1998 Mailing of third Circular

31 December 1998 Full registration fee due and Full excursion fee due

31 May 1999 Pull payment due for accomodation

- Abstract : 1. All Abstracts must be submitted either on disc or via e-mail, and a hard copy should be mailed.
2. The general format should include the name(s) and address(es) of the author(s) on the top line, the title on the second line, and the text thereafter. Detailed formatting will be done by the Abstracts Subcommittee.
3. Abstracts should be no more than 500 words long
4. send by 31 March 1998 to Secretary-General, Dr. D. Margaret Avery, INQUA Congress
P.O. Box 61, SouthAfrican Museum, Cape Townm 8000, South Africa,
TEL +27-21-243-330 FAX +27-21-246-716, E-mail: mavery@samuseum.ac.za

■ Second International Conference on Isotopesのお知らせ

International Conference on Isotopes 第2回大会が オーストラリアのSydneyで、1997年10月12-16日開催されます。概要は以下の通りです。

Provisional Scientific Program

- * Isotopes for Industry and Research
- * Isotopes for Health
- * Isotopes for a Better Environment
- * Radiation Safety and Related Topics

Deadlines

Title and Abstract : 6 November 1996

Acceptance : notified Before the end of 1996

Extended Abstract and Full Text : 19 July 1997

Early Registration : 1 August 1997

Abstractの送付先

Dr. Clarence J. Hardy, Executive Chairman, 2ICI
Australian Nuclear Association Inc.
P.O. Box 85 PEAKHURST NSW 2210, AUSTRALIA
Fax 61-2-9570-6473 E-mail: cjhardy@ozemail.com.au

■ Inter-Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciencesのお知らせ

Inter-Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciencesが Fremantle, W.A. Australiaで1997年7月21-25日開催されます。概要は以下の通りです。

Theme: Human Genetics :Diversity and Disease

問い合わせ先 : Alan H. Bittles, Dept of Human Biology, Edith Cowan University, Joondalup Campus,
Perth, W.A. 6027, Australia:E-mail A.Bittles@cowan.edu.au

関連学協会からのお知らせ

■ 「1995年兵庫県南部地震ならびに阪神・淡路大震災に関する 地学的調査・研究報告の一覧（2周年版）」の配布について

日本学術会議地質学研究連絡委員会では、「1995年兵庫県南部地震ならびに阪神・淡路大震災に関する地学的調査・研究の一覧」という資料を作成してまいりました。

「作業用速報版」（1995年10月）では約450文献、「増補：作業用速報版」（1996年3月）では約800文献を載せましたが、今回の「2周年版」では約1200文献を載せてあります。抜け落ち・推敲もれも多い状態ですが、この点を承知して戴いた上で、ご希望の方にコピーをお送り致します。送付をご希望の方は、宛名ラベルおよび送料+コピー代（700円：郵便小為替）をお送り下さい。1997年2月から3月を目途に印刷・発送致します。

請求先：〒156東京都世田谷区桜上水3-25-40
日本大学文理学部地球システム科学科、 小坂和夫
TEL 03-3329-1151（内）5207 FAX 03-5317-9430. e-mail kosaka@chs.nihon-u.ac.jp

■ 「関東平野 - 故小杉博士追悼号 - 」について

日本第四紀学会会員小杉正人氏が1993年夏に33歳の若さで突然に他界してから早や3年余の歳月が過ぎました。当時日本大学文理学部応用地学科助手であった小杉氏は主に珪藻化石に基づく古環境・古生態研究の牽引者の一人であり、将来の学会を担う一人として期待されておりました。この度、小杉氏が事務局を支えていた関東平野研究会及び彼が事実上のリーダーであった古生態ゼミのメンバーが中心となり、追悼出版物を関東平野研究会の「関東平野」第4号として刊行致しました。本号には、古環境・古生態に関わりの深い多くの論文（小池一之氏、松島義章氏、百原新氏、下山正一氏、松岡数充氏ほか）、追悼文、小杉正人氏の足跡と全論文リストが盛り込まれ、総180頁になります。是非多くの方が入手されるよう、お願いを申しあげます。

1997年1月10日 関東平野研究会追悼号編集委員会
遠藤邦彦・清永丈太・百原 新・塚越 哲ほか

「関東平野 第4号 - 故小杉正人博士追悼号 - 」総180頁
定価：1500円 学生割引1200円 [送料別]
申し込み先：〒156世田谷区桜上水3-25-40 日本大学文理学部地球システム科学教室
遠藤邦彦あて Tel&Fax：03-3290-5451（直通） Email:endo@chs.nihon-u.ac.jp

FAX申し込み書

関東平野研究会 行
FAX 03-3290-5451

☆「関東平野 第4号 - 故小杉正人博士追悼号 - 」を____部申し込みます。
但し〔（ ）一般・（ ）学生割引〕

☆「関東平野第3号（1000円）」を____部申し込みます。

☆支払方法の希望：（ ）銀行振込、（ ）現金書留、（ ）その他〔 _____ 〕

申込者氏名（所属） _____

送付先 _____

■ 大阪市立自然史博物館の学芸員の公募

1. 募集人員： 1名（第四紀学分野環境地質学担当）
2. 採用予定： 平成9年（1997）年4月1日
3. 応募資格： 次の各号の条件を満たす者
 - （1）学校教育法による大学（短期大学を除く）を卒業した者（平成9年3月卒業予定を含む）、またはこれと同等と認められる者。
 - （2）昭和36年4月2日以降に生まれた者
 - （3）大学等で、地質学に関する研究業績（大学の卒業論文も含む）を有する者
※ただし、地方公務員法第16条各号に該当する者は受験できません。
4. 業務内容：採用後は、環境地質に関する調査研究とともに、他の第四紀分野の学芸員（第四紀古植物学・花粉学、第四紀軟体動物古生物学）と分担しながら、第四紀全般に関する資料（特に地質学）の収集保管、展示、普及教育などの業務に携わっていただきます。野外地質調査と層序学を基盤にして、地下水、地盤問題等、平野の地下地質について環境地質学的研究を進めることとなります。自然史博物館の業務内容について、詳しくは同館発行の「館報」を参照ください。
5. 必要書類
 - （1）大阪市職員採用申込書
 - （2）大学学部から最終学校までの卒業（見込み）証明書
 - （3）大学学部から最終学校までの成績証明書
 - （4）研究指導者の推薦状
 - （5）卒業論文、修士論文、博士論文の要旨（各800字程度、すべて作成中を含む）
 - （6）現在までの研究経過と今後の研究の展望（1200字程度）
 - （7）業績のリスト（学会での発表を含む）
 - （8）公表論文の別刷（コピー可）
6. 提出期限： 平成9年2月12日（水）午後5時必着
7. 提出先：〒546 大阪市東住吉区長居公園1-23
大阪自然史博物館 庶務部（人事担当）（TEL 06-697-6221）
郵送の場合は書留扱いとし、封筒の表に願書在中と朱字してください。
8. 試験
 - 1）選考手順
 - （1）書類選考
 - （2）筆記試験（ア）一般教養、（イ）専門及び博物館学
 - （3）口述試験（筆記試験合格者についておこなう）
 - （4）身体検査（筆記試験合格者についておこなう）
 - 2）試験日 平成9年2月24日（月）・25日（火）
 - 3）場所・時刻 書類選考合格者に平成9年2月14日（金）以降に連絡します。
9. 備考
 - （1）当博物館は日本育英会により研究機関の指定を受けているので、大学院における育英資金の返済が免除されます。
 - （2）当館学芸員（及び学芸員補）は、文部省科学研究費補助金（基盤研究など）を申請することができます。
 - （3）給料については、大阪市研究職給料表が適応されます。
 - （4）本選考に当たっては、博物館報第5条による学芸員資格の有無は判断材料としません。未取得の場合は学芸員補として採用され、採用後に資格を取得していただきます。
 - （5）現在の研究体制

植物研究室	3名	種子植物分類・形態学、種子植物分類・生態学、シダ植物生態学
動物研究室	3名	海産無脊椎動物分類学、魚類分類学、鳥類生態学
昆虫研究室	3名	半翅目昆虫分類学、鱗翅目昆虫分類学、鞘翅目昆虫分類学
地史研究室	3名	古脊椎動物学、中・古生代微古生物学、第三紀古植物学
第四紀研究室	2名	第四紀古植物学・花粉学、第四紀軟体動物古生物学

研究連絡委員会報告

■第16期第8回第四紀研究連絡委員会議事録

日時：平成8年12月13日（金）13時30分-15時40分

場所：日本学術会議第1部会議室（5階）

出席者：池田安隆、上杉 陽、熊井久雄、太田陽子、大場忠道、新藤静夫、立石雅昭、野上道男、松島義章、米倉伸之（10名）

欠席者：小池裕子、酒井潤一、坂上寛一（3名）

1. 前回（9月20日）議事録案はすでに「第四紀通信」に掲載済みだが、一部を修正して（教育システムを教育体制に修正）改めて承認した。

2. 報告

（1）委員長からの報告

国際対応の手引き96年版のための原稿を日本学術会議事務局に提出したこと、日本学術会議第17期会員候補者として日本第四紀学会では鎮西清高氏を推薦することになったことが報告された。

（2）日本学術会議報告

新藤会員から以下の報告があった。

秋の連合部会、部会、総会が10月15日から18日に開催され、17期の会員候補者の者の推薦締め切りが2月15日まで延期されたこと、研究連絡委員会の見直しなどについて議論されたことが報告された。

3. 審議

（1）平成9年度国際会議代表派遣候補者について検討し、8月15日から24日までバンコクで開催される国際第四紀学連合層序研究委員会アジア太平洋層序研究小委員会へ大阪市立大学の熊井久雄研連委員を推薦することとした。

（2）研究連絡委員会の見直しについて、新藤会員から最近の情勢が報告され、現在の研連の性格（領域別研連、課題別研連：推薦研連、非推薦研連）、研連と専門委員会の違い、地質科学関係研連の現状などについて検討した。さらに、米倉委員長から提案された第四紀研連の見解案を検討して、ほぼ原案に添った見解をまとめ、第1常置委員会委員長、第4部会長、地質科学総合研連委員長、地質学研連委員長、古生物学研連委員長、鉱物学研連委員長、結晶学研連委員長などに送付することにした（添付資料参照）。

（3）第四紀研究の教育体制について、今までの検討結果をどのような形でまとめるかについて議論した。その結果、次回までに問題点をまとめて、研連としての何らかの意見を述べることにした。

今回は1997年5月23日（金）に開催する予定。

なお、第四紀研連に引き続き、第四紀環境変動国際シンポジウム実行委員会を17時まで同所にて開催した。出席者は、米倉伸之、太田陽子、大村明雄、大場忠道、熊井久雄の5名で、1997年

10月14日-17日に開催予定の「アジア・西太平洋地域における第四紀環境変動に関する国際シンポジウム」のプログラムと招待講演者について検討した。

（資料）

日本学術会議研究連絡委員会の見直し案についての第四紀研究連絡委員会の見解

平成8年12月13日

第四紀研究連絡委員会 委員長 米倉伸之

平成8年6月20日付けの第1常置委員会の「研究連絡委員会の見直しについて（討議資料、案）」は、第四紀研究連絡委員会には直接は提示されませんが、第四紀研究連絡委員会の存亡に関する内容が含まれており、非常に大切な案件ですので、平成8年12月13日の第四紀研究連絡委員会での討議を踏まえ、見解をお送りいたします。

研究連絡委員会および専門委員会の見直しの原則について、「具体的な研連および専委の見直し案は、新しい研究分野の研連枠を生み出すことを主たる目的をして」とありますが、最近の学問と研究の進展から見ると、現行法の中でのやりくりではなく、基本的には研究連絡委員会の総数を増やす方向でまず検討・努力すべきであると思います。もしそれが困難である場合にも、既存の非推薦研究連絡委員会を専門委員会に格下げする形で研連委員数を捻出するのではなく、推薦研連を含めて、それぞれの研究分野での研究連絡委員会の統合や研究連絡委員の数の再配分などを総合的に検討すべきであると考えます。具体的には、第四紀研究連絡委員会が関連する地球科学分野では、地質科学関連の研究連絡委員会全体の見直しが必要であると考えます。そのためには、第1常置委員会内部での検討と平行して、たとえば地質科学総合研究連絡委員会の場で研究分野や研究内容がよくわかる当事者（関連研究連絡委員会の関係者）が具体的な検討をする機会を持つことが必要であると考えます。第四紀研究連絡委員会はすでに第13期から研究連絡委員会委員の推薦母体を日本第四紀学会だけでなく、関連する複数の学会（日本地形学連合および地学団体研究会）から2名の委員の推薦を受けており、また国際対応を考慮した研連内部の選出枠（1名）を設けるなどして、学問分野の発展を考慮して委員会を構成する努力をしております。

この見解は第1常置委員会委員長、第4部会長、地質科学総合研究連絡委員会委員長、地質学研究連絡委員会委員長、古生物研究連絡委員会委員長、鉱物学研究連絡委員会委員長、結晶学研究連絡委員会委員長に送付いたしますので、ご理解とご検討をいただけるようお願いいたします。以上

■評議員会議事録（1996年度第2回）

日時：1997年1月25日 15：15～18：00

場所：日本大学会館

議長：陶野郁雄

出席者：鎮西清高（会長），遠藤邦彦，大場忠道，小野 昭，織笠 昭，菊地隆男，小池裕子，小泉武栄，齊藤享治，坂上寛一，末永和幸，杉山雄一，辻 誠一郎，陶野郁雄，中村俊夫，那須孝悌，松下 まり子，松島義章，松田時彦，山崎晴雄，米倉伸之（以上評議員），綿引裕子（オブザーバー，編集書記）；委任状13通

報告事項

1. 1996年度事業中間報告

1-1. 庶務

- (1) 以下のシンポジウム・講演会等の協賛および後援を行った：第12回ESR応用計測研究会（1996.9.14-15.：同研究会），海洋調査技術学会第8回研究成果発表会（1996.11.14-15.：同学会），第4回アジア学術会議—科学者フォーラム—（1997.2.3-7.：日本学術会議），「第四紀の海岸環境・大陸棚に関する国内シンポジウム」（1997.2.15.：IGCP国内委員会・シンポジウム実行委員会）
- (2) 1997年度文部省科学研究費刊行助成金の申請を行った。
- (3) 1996年度選挙管理委員会を組織した。幹事会から推薦をうけた委員は，叶内敦子，久保純子，福沢仁之，水野清秀，宮内崇裕，山本憲志郎氏。
- (4) 日本学術会議第17期会員の候補者と推薦人の選出を評議員の投票により行った。会員候補者（地質科学総合研究連絡委員会）は鎮西清高，推薦人は菊地隆男・米倉伸之，推薦人予備者は上杉 陽。
- (5) 内規集作成のための資料収集を行った。
- (6) 地質科学関係学協会連絡協議会，地球環境科学関連学会協議会の設立準備会に出席した。
- (7) 南海タイムス（1997年1月1日付，菅 香世子著）に，露頭の重要性を記述し，「第四紀露頭集」を紹介した記事が掲載された。
- (8) 1997年4月から文部省学術情報センターに電子図書館を開設し，ネットワークセンターを設置してインターネットを介して学術論文を提供する計画がある。著作権の問題や各学会が経済的打撃（出版物の売上減など）を受けることなどから，日本工学会ではそれらの問題の解決に向けて要望書を学術情報センターに提出している。

1-2. 編集

- (1) 「第四紀研究」35巻4号，5号を編集・刊行した。36巻1号は1月末に印刷にかかる。現在，受理論文はなし，審査中の論文は20編である。

- (2) 1996年日本第四紀学会のシンポジウム特集号「最終氷期の終焉と縄文文化の成立・展開」（編集委員長；米倉伸之）は，36巻3号に刊行予定で編集を進めている。

- (3) 第四紀研究への投稿論文が少ないので，大会発表者に投稿の呼びかけ文書を送付する。会員諸氏からの論文投稿をお願いします。

- (4) 投稿規定，執筆要領の検討を行っている。第四紀研究A4判化を検討した。

1-3. 行事

- (1) 1996年度大会を東京大学において8月22～24日に開催した。22，23日は会場を東京大学山上会館に設定して，一般研究発表，総会，および懇親会を行った。また，24日は東京大学大講堂（安田講堂）で第四紀学会創立40周年記念公開シンポジウム「最終氷期の終焉と縄文文化の成立・展開」（オーガナイザー：米倉伸之・辻 誠一郎・岡村道雄）を実施した。
- (2) 1997年地球惑星科学関連学会合同大会（3月25～28日）のプログラム発行の準備を行った。シンポジウムは「地球規模変動に対する熱帯海岸環境の対応と戦略」（オーガナイザー：海津正倫，茅根 創）を行う。
- (3) 第四紀学会特別講演会「加速器質量分析法による放射性炭素年代測定の最近の動向」（講演者；中村俊夫）を1月25日に日本大学会館で開催した。
- (4) 博物館見学会の準備を行った。2月15日，相模原市立博物館にて，博物館主催の講演会（町田 洋：相模川流域の10万年史），および博物館施設見学会が行われる予定。
- (5) 1997年度大会は，8月4～10日に北海道大学で行われる。プレ巡検，一般研究発表（口頭およびポスター），シンポジウム，総会，懇親会，ポスト巡検が行われる予定。シンポジウムのテーマは，「東アジアから西太平洋へ：陸・海・ヒトのテレコネクション」（オーガナイザー：小泉 格，大場忠道，小野有五）である。
- (6) 1998年度第四紀学会大会の会場選定を行った。

1-4. 企画

- (1) 日本第四紀学会創立40周年記念出版物「第四紀露頭集—日本のテフラー」は，12月末現在で1700冊を販売した。
- (2) 第4回講習会「遺跡の環境と生業の復元1 植物遺体群を調べる」（講師；鈴木三男，南木陸彦，岡田康弘）を5月下旬か6月上旬1泊2日で実施予定。内容は，八甲田山麓および三内丸山遺跡における様々な植物遺体群の観察と試料採取，種子・果実など大型植物遺体群と木材遺体群の検討。
- (3) 第5回講習会「遺跡の環境と生業の復元2 動物遺体群を調べる」（講師；西本豊弘，桶泉岳二，岡田康弘）を9月下旬か10月上旬1泊2日で実施予定。内容は，三内丸山遺跡および周辺域における

学会報告

様々な動物遺体群の観察と試料採取，哺乳動物遺体群・魚介類遺体群の検討。

1-5. 会報

(1) 「第四紀通信」3巻5号，6号を刊行した。4巻1号を編集中。

(2) 文部省学術情報センターのインターネットWWWサーバによる日本第四紀学会のホームページの内容について検討した。見本が提示され，目次としては，学会ニュース，日本第四紀学会とは，入会のご案内，学会誌「第四紀研究」，学会会報「第四紀通信」，研究委員会，学会消息，第四紀学関連ホームページ紹介が挙がっている。

1-6. 渉外

(1) 自然史学会連合の第3回定期総会が1996年10月26日に開催された。科研費「自然史科学」（時限付き）の1996年の審査委員候補者については，4分野から1名づつを上位に，残りは投票で順位をつけた。今後は，前回に審査委員をだした学会は，次回は辞退することが了承された。シンポジウムを安定的に開催するために，来年度から各学会2万円の負担金が要請され承認された。

(2) 地球惑星科学関連学会の1997年の合同大会（名古屋大学，3月25～28日）の開催に向け対応した。本会会員へプログラム集を郵送するため，会員名簿の修正最終版を作成した。ただし，郵送費がかさむので，今後本会としても検討を要す。

2. 1996年度会計中間報告

1997年1月16日現在の収支試算表が示され，以下の点について報告された。

(1) 全体的に収入・支出ともおおむね順調である。

(2) ただし，収入に関しては，会費のほか，例年，誌代・雑収入の依存度が高い。今年度も，予算額では誌代の占める割合が高いが，これは主に「第四紀露頭集」の売上によるものである。現在，1700冊売上，順調ではあるが，今年度さらに少なくとも200冊程度の販売を目標としなければならない。

(3) 旅費・交通費の支出がすでに，予算額を超えているが，予算額を低く押さえていたこと，どうしても必要なものでもあるので，超過を理解していただきたい。

3. 研連報告

米倉伸之第四紀研連委員長から以下の報告があった。日本学術会議第1常置委員会から提言のあった研究連絡委員会の見直し案について，意見交換し，改善策などについて検討している。第四紀学関係のカリキュラムの調査を行った。それをもとに，第四紀関係教育システムについて何らかの提言をまとめることとした。「アジア・西太平洋地域における第四紀環境変動に関する国際シンポジウム」（第四紀環境変動国際シンポジウム実行委員会主催，1997年10月14～17日，東京大学山上会館）を共催する。「第四紀の海岸環境・大陸に関する国際シンポジウム」

（IGCP国内委員会主催，1997年2月15日，神戸大学滝川会館）および「地盤環境と気候変動」シンポジウム（社団法人地下水技術協会）の共催を承認した。

審議事項

1. 論文賞選考委員の承認について

学会賞規定に基づき，会長が推薦した5名の論文賞受賞候補者選考委員会の設置が承認された。

2. 今後の論文賞選考委員の選考方法について

委員5名の選考は，現在，会長が推薦し，評議員会が承認することになっている。委員経験者に対して再度，委員を依頼することには，ためらいがあるなどのことから，賞の選考を重ねるにしがたい，委員の選考が難しくなっている旨，会長から報告があった。これをうけ，「会長が10名以上の候補者を推薦し，評議員の投票により5名を選考する」という案が幹事会から出され，了承された。ただし，委員が多く分野にまたがるように，投票に当たり推薦候補者に分野を付記することも，同時に提案され，了承された。

また，委員の任期は，現行1年任期で2期までとなっている。論文賞の対象論文は2年度分なので，委員の継続性よりも，観点をかえての評価を重視し，「1年任期で，1期まで」という案が出され，了承された。ただし，連続でなければ，再任もありうるということが，確認された。

3. 次期編集委員会の体制について

編集委員会の主体が関西地区に移動してから，今年で4年目となった。この間，情報部分は第四紀通信に移管し，編集は順調に進んだ。しかし，当初の依頼が4年程度であったので，次期編集委員会の主体をどこに移すのか検討しなければならなくなった。最近，学会連合とかインターネットによる情報交換が急速に進み，学会や学会誌のありかたが問われるようになってきた。これらに対処するためには，幹事会と編集委員会とがいっそう密に連絡を取り合い，相互の理解を深めることが求められている。このような背景から，次期編集委員会を首都圏に移すことが提案され，了承された。

4. 第四紀研究のA4判化について

編集委員会では，第四紀研究のA4判化について検討してきた。官公庁の公文書のA4判化に伴い，各種の学術雑誌がA4判化されてきている現状で，第四紀研究においても，いつかA4判化する必要がある。他のA4判化された学術雑誌と第四紀研究を比べると，文字・図表が小さく読みづらい。読みやすい図表・文字にするにはA4判化が必要である。このような判断から，編集委員会では，A4判化に伴って生じる，投稿規定・執筆要領の修正，印刷費・郵送料の増加（1～2割），全体ページの減少（約1割）に関して議論を行ってきた。この議論をふまえ，第四紀研究をA4判化するかどうか検討した。

メリット・デメリットなど種々議論の結果、結論をだすためには、印刷費・郵送料の増加など、もう少し具体的な資料が必要と判断し、評議員会での意見を参考にして幹事会で検討することにした。

5. 学協会連合への対応について

日本第四紀学会は、現在、自然史科学連合および地球惑星科学関連学会に正式参加している。昨年、さらに、地質科学関係学協会連絡協議会と地球環境科学関連学会協議会の設立に向けて、参加のよびかけがあった（詳細は、第四紀通信3巻3号に掲載）。前者は、地質学研究連絡委員会と地質科学総合研究連絡委員会がよびかけた、地質科学の振興を目的としたものである。後者は、日本気象学会がよびかけた、学会活動に関する情報交換、シンポジウム・研究会等の開催を目的としたものである。いずれも今年、設立を目指している。これらの協議会への対応については、今後も、意見を求めていくこととした。

6. 1998年度大会の開催地について

1998年度大会を小田原市の神奈川県立生命の星・地球博物館で8月下旬、開催することが承認された。学会時に、一般向けの公開シンポや普及講演を行う旨、報告があった。

7. 引き継ぎの方法について

今年は、役員改選期に当たっている。そのような年の8月の評議員会・総会の事業報告・計画、会計報告、予算案などは、新幹事が報告・提案することになっている。しかし、短期間にすべての事項を引き継げるわけではないので、質問されても返答に窮する場面もかつてあった。この点を解消するために、評議員会での旧幹事のオブザーバーとしての参加が提案され、了承された。

■第9回幹事会議事録

日時：1996年12月7日（土） 13:00～17:00

場所：東京大学 理学部5号館 地理学教室

出席：鎮西清高（会長）、坂上寛一、小池裕子、杉山雄一、山崎晴雄、吉川周作、齊藤享治

1. 庶務

- (1)第4回アジア学術会議—科学者フォーラム—（1997年2月3日～7日、於：日本学術会議）「持続可能な発展とアジアにおける学術協力のあり方について」の協賛学会となることを承認した。
- (2)1997年度の文部省科学研究費学術刊行物補助金の申請をした。
- (3)1997年に実施される役員選挙の選挙管理委員会委員の人選を行った。
- (4)日本学術会議第17期会員の候補者と推薦人（および補欠）を、評議員の投票により決定した。
- (5)1997年の論文賞の選考委員について、会長から推薦候補者の紹介があった。1998年以降について

は、論文賞選考委員の選考方法（現行の会長推薦を、評議員の投票に）および委員の任期（現行の2期2年までを、1期1年までに）を変えるよう、第2回評議員会に提案し、検討することとした。

- (6)第2回地質科学関係学協会連絡協議会準備会が10月25日に日本学術会議会議室で開催され、地連協の定款および地連協の今後の運営について話合われた。運営形態については、当初の趣旨とは異なり、分担金の供出はないこと、各学会に特別の奉仕を要請しないことが確認された。12月中に設立趣旨書・定款（新）を送付が送付されるので、第3回会議（4月25日）までに議論して欲しい旨、要請があった。

2. 会計

- (1)現在までの収支については、とくに問題ない旨、報告があった。
- (2)第四紀露頭集の印刷費および編集経費の一部を振り込んだ旨、報告があった。

3. 編集

- (1)第四紀研究35巻5号（受理論文5編）の印刷にかかっているなど、編集状況の報告があった。
- (2)A4判化に向けて、執筆要領等の改正案の作成など作業を進めている旨、報告があった。
- (3)次期の編集委員会の主体については、現在の近畿圏から首都圏に移行する方向で検討することとした。

4. 会報

- (1)第四紀通信の3巻6号が、配布中である。
- (2)文部省学術情報センターの第四紀学会のホームページの開設のために、10月12日、ホームページ検討委員会（仮称）を開催し、役割分担等を決定した。

5. 行事

- (1)第四紀学会講演会を1997年1月25日13:30～15:00、日本大学904室で、中村俊夫会員（名古屋大学年代測定センター）による「加速器質量分析法による年代放射性炭素年代測定の最近の動向」というテーマで実施することとした。
- (2)博物館見学会を1997年2月15日13:00～17:00、相模原市立博物館で実施することとした。なお、博物館の講演会として、町田洋会員による「相模川流域の10万年史」も催される。
- (3)1997年度の大会では、発表時間を従来よりも長くすること、およびポスター・セッションを充実させるために、ポスター・セッションの時間にはオーラル・セッションを入れないことが了承された。

6. 渉外

- (1)自然史学会連合の第3回定期総会が10月26日に東京大学教養学部で開催された。科研費「自然史科学」の1996年の審査委員候補者については、4分野から1名ずつを上位に、残りは投票でランク

会員消息

付けした。今後については、前回、審査委員をだした学会は、次回辞退することで了解された。また、分担金について、当初、求めない方針であったが、シンポジウムを安定的に開催することなどから、各学会に来年度から2万円の供出を要請することが承認された。

■第10回 幹事会議事録

日時：1997年1月25日 12：30～13：30

場所：日本大学会館

出席者：鎮西清高（会長）、米倉伸之（副会長）、坂上寛一、小野 昭、小池裕子、杉山雄一、辻 誠一郎、山崎晴雄、斉藤享治（以上幹事）、綿引裕子（オブザーバー、編集書記）

議題：第2回評議員会の打ち合わせ

松井 愈 博士の逝去を悼む

本学会会員松井 愈 博士（1923年生）には、1996年11月19日午前2時37分、急性心不全のため札幌市で永眠されました。享年74歳でした。

松井博士は1945年、北海道大学理学部地質学鉱物学科を卒業、55年同学部助教授、62年教授。博士は、1962年以降研究テーマを“北海道の新生代構造発達史”と定め、特に“十勝構造盆地（鮮新生～第四紀）の造構史・地形発達史”のサブテーマについて精力的な研究を進められました。すなわち、62年「十勝団体研究会」を結成、その代表を務められ、69～71年にはほぼ完全な忠類ナウマン象を発見、発掘調査を亀井節夫京大教授（当時）と共に指導されました。松井博士の率いる十勝団研は、72年に「十勝の地史研究とナウマン象発掘」の研究で、北海道新聞社会文化賞を受賞しています。

1968～85年に博士と共同研究者は、本学会誌「第四紀研究」に『十勝平野の第四系（第2報）』・『十勝平野の前期洪積統-長流枝内層について-』・『十勝平野の後期洪積世の降下軽石堆積物について』・『十勝平野における後期洪積世の周氷河現象とその層準（第1報）』・『十勝平野の構造発達史-帯広盆地と幕別台地の分化-』の論文を公表しています。1978年に十勝団研は、17年間の研究成果を『十勝平野』（地団研専報・No.22）として出版し解散しましたが、この十勝平野の総括的な第四紀研究は、「日本地質学会史年表」（日本地質学会、1993年）にも取り上げられています。また、博士は母校北海道大学の他、北海道教育大学・帯広畜産大学・北星学園大学で講義と研究指導を行い、第四紀学の後進を育ててこられました。

松井 愈博士の第四紀学と地質学に対する教育研究上、科学運動上のご功績を偲び、天寿を全うされた博士の霊に謹んで哀悼の意を表します。

なお、御遺族の住所は、長男松井 元氏が[]にお住まいです。

(近堂 祐弘)

■ 第四紀通信事務局から

第四紀学会では、ホームページ検討委員会を設置して、第四紀学会の情報を広く会員外にも伝えるようホームページの作成を準備しております。学術情報センターとの手続きが終了し次第、第四紀学会ホームページを開設しますので、ご意見をお寄せください。また第四紀学の研究機関や会員の中ですでにホームページをお持ちの方は、下記の第四紀通信事務局までお知らせ下さい。

第四紀通信事務局：九州大学大学院比較社会文化研究科 小池 裕子
TEL & FAX 092-726-4847 E-mail koikegsc@mbox.nc.kyushu-u. ac.jp

日本地質図 大系 6

近畿地方

山田直利・滝沢文教 編集 A2判 136頁 定価77250円 千1500

オールカラー版

近畿地方は、地質学的に西南日本内帯と同外帯にまたがり、先新第三紀の岩石・地層が広く露出しており、その地質構成と地史は非常に複雑である。本書は、近畿地方の地質の実態、自然の生い立ちや環境を多くの地質図・解説・写真などによってわかりやすく解説

内容目次

日本列島および周辺の地形/日本の地質概要/ランドサット衛星写真:日本列島/近畿地方の地質/空から見た近畿地方/近畿地方のネオテクトニクス/近畿地方の重力異常/近畿地方の磁気異常/近畿地方北西部の地質(付、山崎断層)/播但地域の地質/夜久野-朝来地域の地質/姫路-赤穂地域の地質/近畿地方北部の地質(付、舞鶴帯-丹波帯)/若狭湾沿岸の地質Ⅰ:宮津地域/若狭湾沿岸の地質Ⅱ:大江山地/若狭湾沿岸の地質Ⅲ:舞鶴地域/若狭湾沿岸の地質Ⅳ:小浜地域/丹波山地の地質Ⅰ:福知山地/丹波山地の地質Ⅱ:綾部地域/丹波山地の地質Ⅲ:京北-美山地/丹波山地の地質Ⅳ:篠山地/丹波山地の地質Ⅴ:園部地域/丹波山地の地質Ⅵ:亀岡-京都地域/京都盆地の地質/大阪湾周辺地域の地質/三田地域の地質/神戸地域の地質(付、兵庫県南部地震)/淡路島北部の地質/大阪平野西部の地質/大阪平野北部の地質(付、大阪平野の地下地質)/大阪平野南部の地質/奈良盆地の地質/近畿地方領家帯の地質/他

●好評既刊●

- 2. 北海道地方 定価74160円
- 3. 東北地方 定価74160円
- 4. 関東地方 定価72100円
- 5. 中部地方 定価72100円
- 7. 中国・四国地方 定価72100円
- 8. 九州地方 定価72100円

■オールカラーで見る世界の地理の最新情報!



図説大百科 世界の地理

《全24巻》

●ENCYCLOPEDIA OF WORLD GEOGRAPHY
Planned and produced by Andromeda Oxford Ltd.
●英国アンドロメダ社の好評シリーズ

田辺 裕 監修

A4変型判 各148頁 定価各7828円
(本体価格各7600円)

■第1期好評発売中 ☆4冊同時刊行

- 1. アメリカ合衆国Ⅰ(4-254-16671-0)
- 12. ドイツ・オーストリア・スイス(4-254-16682-6)
- 17. 西・中央・東アフリカ(4-254-16687-7)
- 20. 中国・台湾・香港(4-254-16690-7)

1997年2月刊行

- 第Ⅱ期 11. イタリア・ギリシア
- 16. 北アフリカ
- 21. 東南アジア
- 23. オセアニア・南極

以降、5月、11月に4冊ずつ定期刊行(1998年11月完結予定)

朝倉書店

〒162 東京都新宿区新小川町6-29/振替00160-9-8673
電話 営業部 (03) 3260-7631 FAX (03) 3260-0180
ホームページ <http://www.asakura.co.jp>

*定価は消費税込みです。